

6月 日本共産党県議団 県議会ニュース です

両角友成議員の6月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの[議会の様子](#)からご覧いただけます。



* 東京オリンピック・パラリンピック開催について *

両角 世界的なコロナ禍の中でも開催の意向だが、開催に向けて進んでいる現在の動きに強い疑問と危惧を抱く。長野冬季五輪を成功させた県として、現在の国の動きに対する知事の姿勢は。

知事 アスリートの思いを考えると、いい形で成功してもらいたいが、コロナ禍で開催する以上、感染拡大につながることはないよう、最大限の措置を講じていくことが重要だ。

両角 開催に何人もの専門家が警鐘を鳴らしている。あと1ヵ月だが何らかの声をあげるべき。

** 行政におけるデジタル化の問題点について **

両角 個人情報保護法制の一元化で、自治体の個人情報保護条例に縛りをかけ、保護の仕組みを切り捨てるのではないかと心配だ。県は市町村と一緒にシステムに入っているが、各自治体が住民福祉のため積み上げてきたものが、標準化の名のもとに後退させられてしまうのではないか。

企画振興部長 国は行政サービスのレベルや仕組みを統一すると考えてるわけではない。全国共通の取組に対応するためには、同一のシステムであっても、その同一のシステムの下だからこそ、それぞれの独自のサービスを工夫しながら提供しやすくなっているものだとは認識している。

** 再生可能エネルギーの普及促進について **

両角 今定例会予算案で、太陽光発電と蓄電池の設置に係る「既存住宅エネルギー自立化補助金」が提案された。「グループパワーチョイス（共同購入）」とあわせ、両事業の位置づけと期待する効果は何か。

環境部長 「グループパワーチョイス」は同時購入によるスケールメリットに期待し、単一の製品ながらも比較的低廉な価格での設置を促進する。「既存住宅エネルギー自立化補助金」は、地元の事業者が販売、施行を担い多様な製品の中から選択が可能。それぞれの特徴を踏まえて事業を選んでもらうことで、屋根ソーラーによる再エネの導入を加速化し、地域内経済循環などにつなげていく。

両角 再生エネルギーが環境を守り、新たな産業、雇用の場の創出になることを確認させてもらう。

質問を終えて

地球温暖化に若者が「私たちの未来を奪わないで」と、知事は「県民会議」を立ち上げ若者世代も一緒にゼロカーボンの実現に取り組むと答弁。いよいよです！！

